

山村留学とホタルの里づくりを柱として、地域と共に歩む学校づくり

三重県いなべ市

活動名

立田小学校学校運営協議会

関係する学校

いなべ市立立田小学校

活動区分	学校支援 地域本部		開始年度	補助の有無
	コーディネーター数	ボランティア登録数		
基本データ	放課後 子供教室		年間開催日数	補助の有無
	コーディネーター数	子供の平均参加人数		
	実施場所		開始年度	放課後児童 クラブとの連携
コミュニティ・ スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数
	平成19年6月1日	15人	38人	5学級
その他	○		※H24年度の実績(補助の有無についてはH25年度の状況)	

活動の概要

立田小学校は全校児童38名、その中で14名が山村留學生である。山村留学にかかわる活動と地域に生息するホタルを校庭の人工川で飼育しながら研究を進めている「ホタル研究」を学校の教育活動の大きな柱としている。これらの活動を中心として、子供にかかわる教育活動を6つにわけ、学校運営協議会の委員が中心となり支援を行っている。学校経営方針の協議・承認(年度始)・学校関係者評価(年度中)・総括の承認(年度末)・全体会で子供の姿の交流などを通して、「めざす子供像」を明らかにし、行事や取組で検証することができている。6つのコミュニティのうち、立田小の特徴的なコミュニティは次の2つである。

- ・ホタル研究コミュニティ・・・ホタルの飼育は高学年中心に行っているが、6月のホタルの会は全校児童の学習発表の場である。その後行われる「ホタルボランティア」(5・6年生が校庭の人工川に飛んでいるホタルを参観者に案内するもの)は夜の活動でもあり、地域の川を案内するときはホタル研究コミュニティの方を中心に地域の大人の方にお世話になっている。
- ・山村留学コミュニティ・・・山村留学行事である「川下り」「スキー」「龍王登山」などの計画を山村留学推進委員会と連携しながら、進めている。安全面への配慮からサポートする大人が多数必要であり、山村留学コミュニティの方を中心にサポートしていただいている。

特徴

【特徴的な活動内容】

地域の実情に応じた組織として、次のコミュニティを設置し、学校運営協議会の委員がそれぞれのコミュニティの担当者となっている。

- ①教育支援コミュニティ(ゲストティーチャーとして児童の学習の支援)
- ②ホタル研究コミュニティ(「ホタル」の飼育・観察・研究などの活動支援)
- ③山村留学コミュニティ(川下りや登山活動など山村留学の活動を支援)
- ④休日サポートコミュニティ(土曜学校の企画運営など休日の居場所作りの支援)
- ⑤地域安全コミュニティ(登下校時に不審者や交通事故から子供達を守る登下校サポーターとしての支援)
- ⑥環境整備コミュニティ(草刈り・剪定・校内清掃等の教育環境整備の支援)

【実施に当たっての工夫】

育友会(PTA)三役、管理職、教職員代表が学校運営協議会・山村留学推進委員会の委員をかねることによって、それぞれの立場の声を直接反映することができ、相互理解と信頼関係のもと連携を図っている。

また、年度始めに各コミュニティの年間計画を立てるため、学校の年間計画に沿って継続的な支援を行っていくことができる。

地域の方に協力していただく授業支援や休日サポート・登下校サポートなどすべての活動を学校運営協議会におけるコミュニティの活動として位置づけているため、地域への依頼もスムーズに行うことができる。

事業を実施して

「立田小育友会」・「山村留学推進委員会」・「立田小を守る会」等、小学校に関わる組織がいくつかあったが、学校運営協議会を設置することで、それぞれの担ってきた仕事を整理し、窓口を一本化した。

山村留学推進委員会の活動や地域の子育て支援の活動、ゲストティーチャーの招請や登下校パトロール・環境整備の取組も、学校運営協議会の中に吸収し整理して、有機的に位置づけた結果、子供と地域のつながりがこれまでより広く厚くなり、運営もスムーズにできるようになった。

その他

山村留学を始めて、昨年度で25年が経過した。ホタルの飼育・研究を始めて今年で20年目となった。

地域とともに歩む学校づくりを継続的に進める上において、「学校運営協議会」という組織は、子供に関わる地域の方・保護者・教職員等の大人たちが共通理解を図る上で非常に意義があると考えている。

参考URL

<http://www.inabe.ed.jp/tatsuta/>



山村留学体験活動の川下りとホタルボランティア



登下校サポーターの方々と学級農園のゲストティーチャー